

染崎延房纂考
樵山小室先生書

神代道志通全

東京書賈

青松軒藏版

明治八年文部省交付

自序

五十年前、予は神代文の考へし、
なほつづき、いん紙藤、
母を好む、
條をこのと、
松と幼童、
乃、
之、

神代道志通全

四年

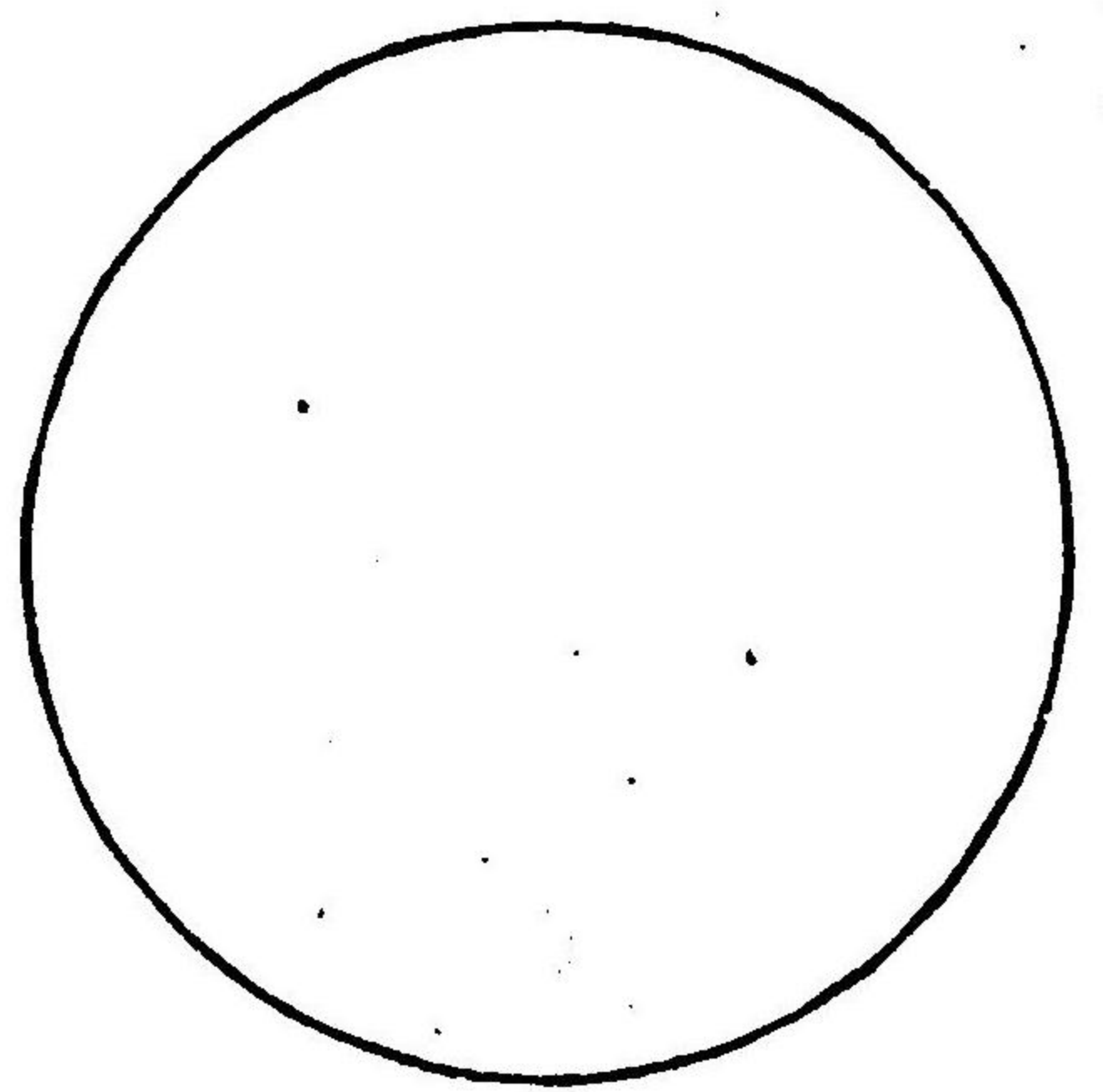
木下道長

神代道志の御霊は
高御産日神
天之御中主神
神産巢日神
此三柱の神は天地も更におあらざりしと
御霊は空にお水月のぶく漂つる月のま
大御ま
神代道志の御霊は
高御産日神
天之御中主神
神産巢日神
此三柱の神は天地も更におあらざりしと
御霊は空にお水月のぶく漂つる月のま
大御ま

東書

神代道志

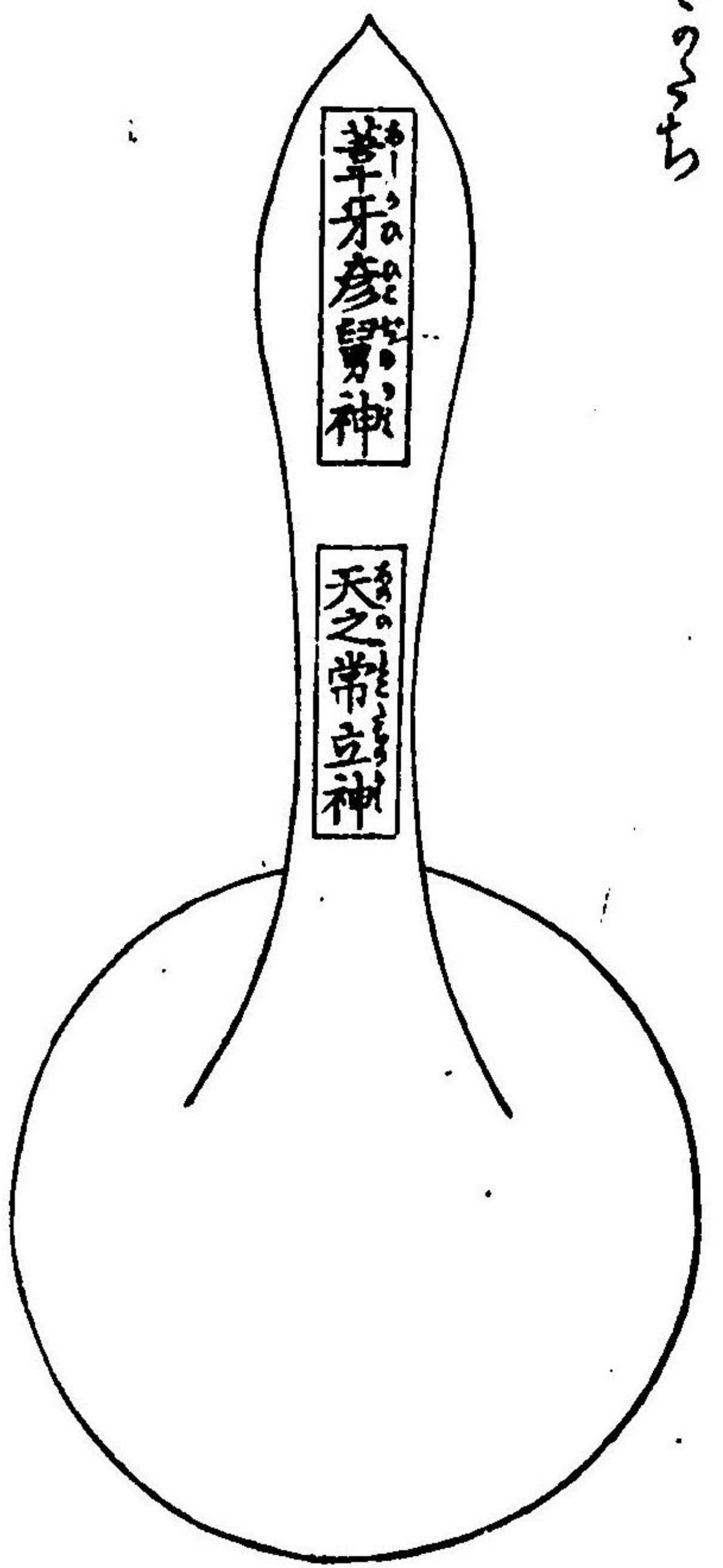
高御産日神
天之御中主神
神産巢日神



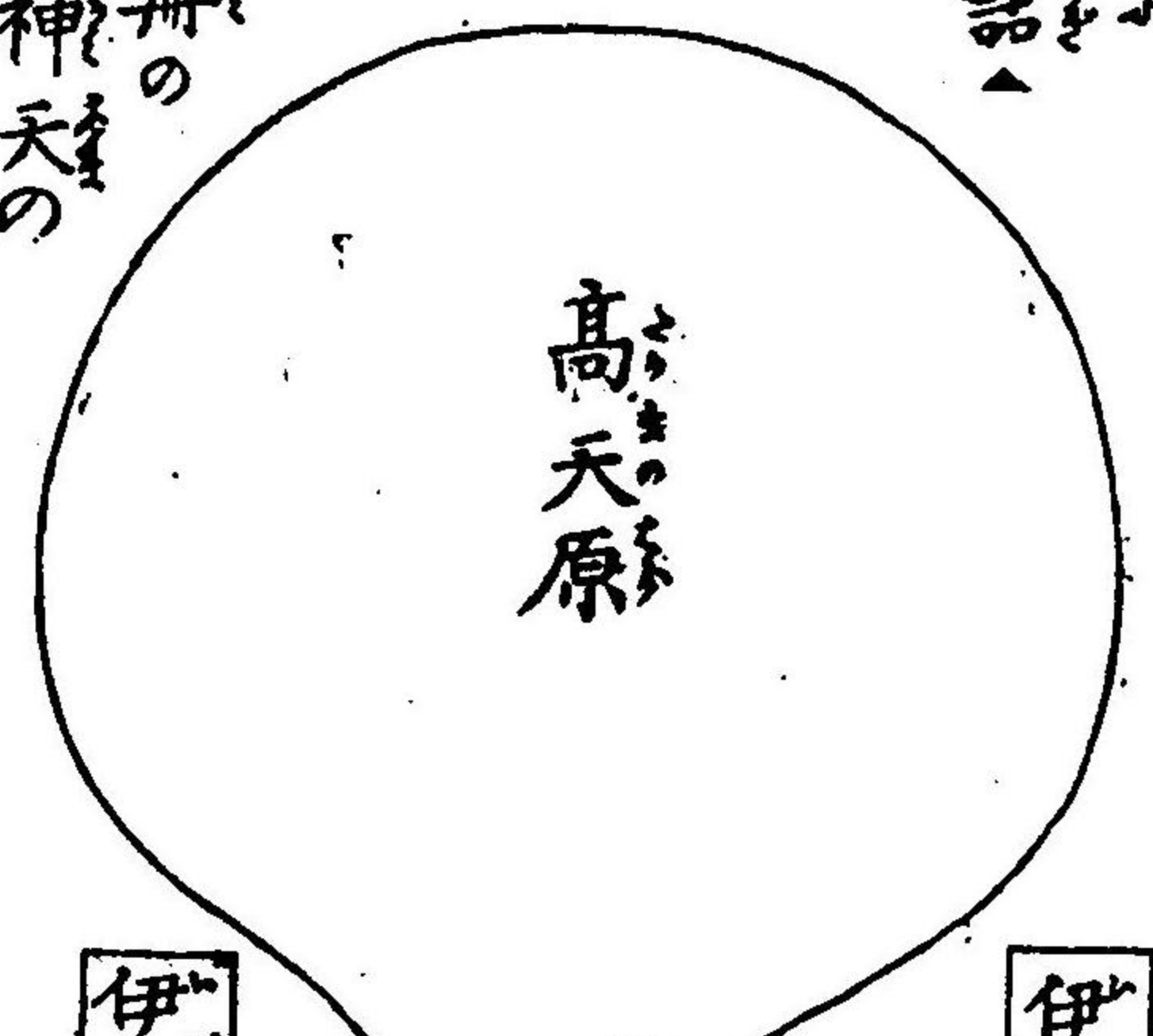
神代道志

二

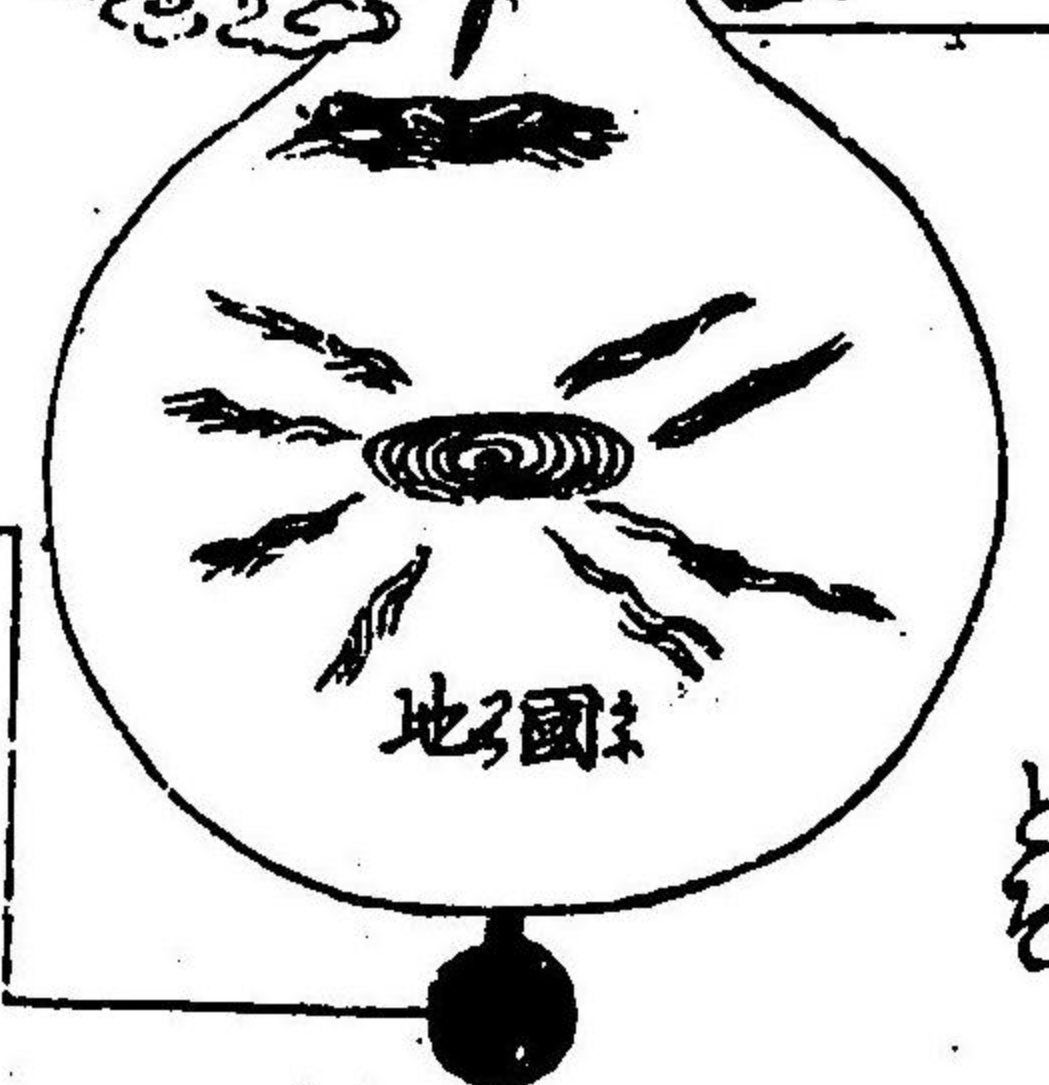
前より水月の如く漂つるの
中より形ち葦牙の如く崩騰
物小因りて此二柱の神成産せる
大御、つらち



彼葦牙の如く崩騰す、のの高天原と云り
又漂つるの如く濁れる物下りて夜見の園と
ある時ふ
伊弉諾
伊弉册

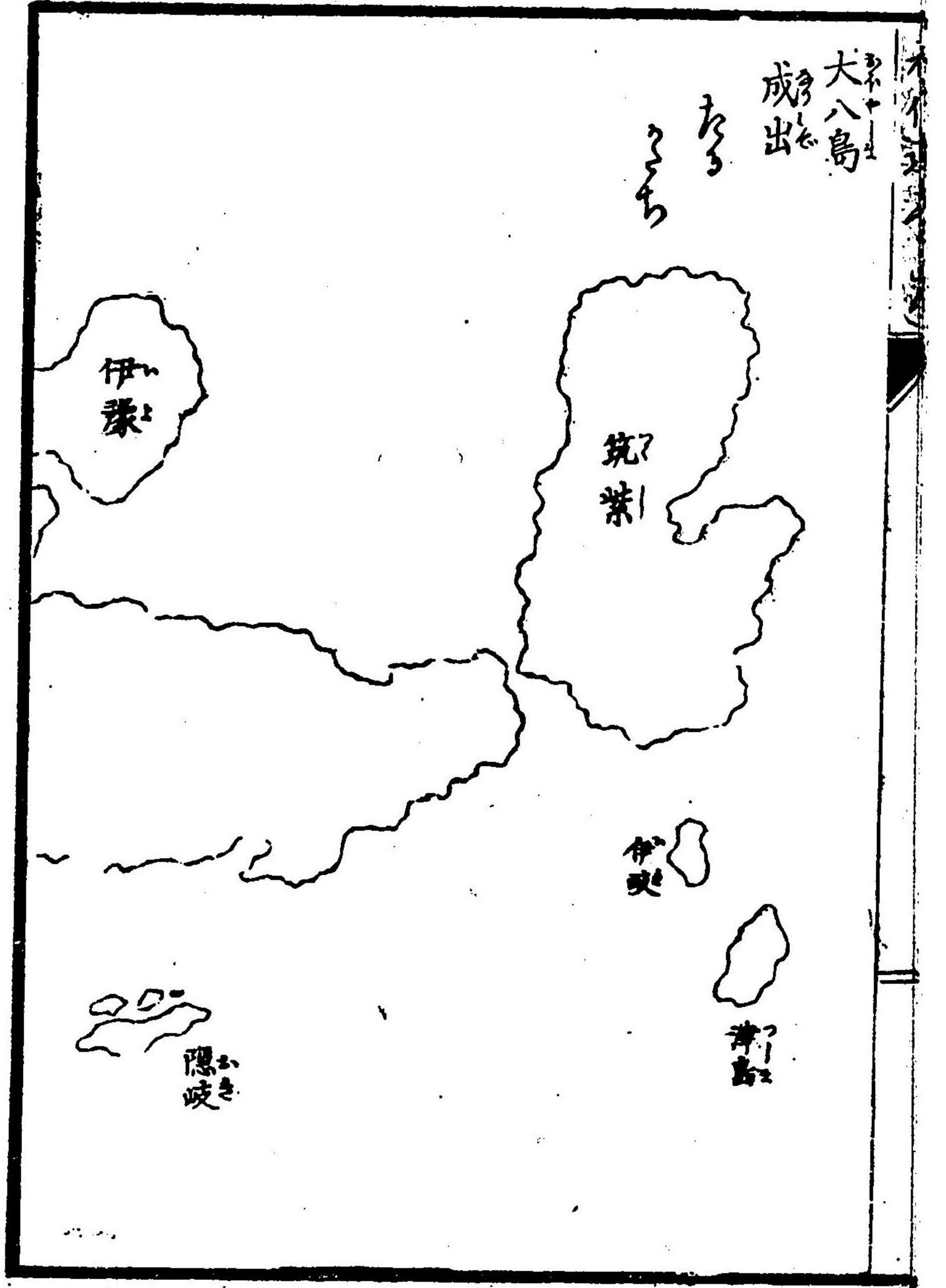
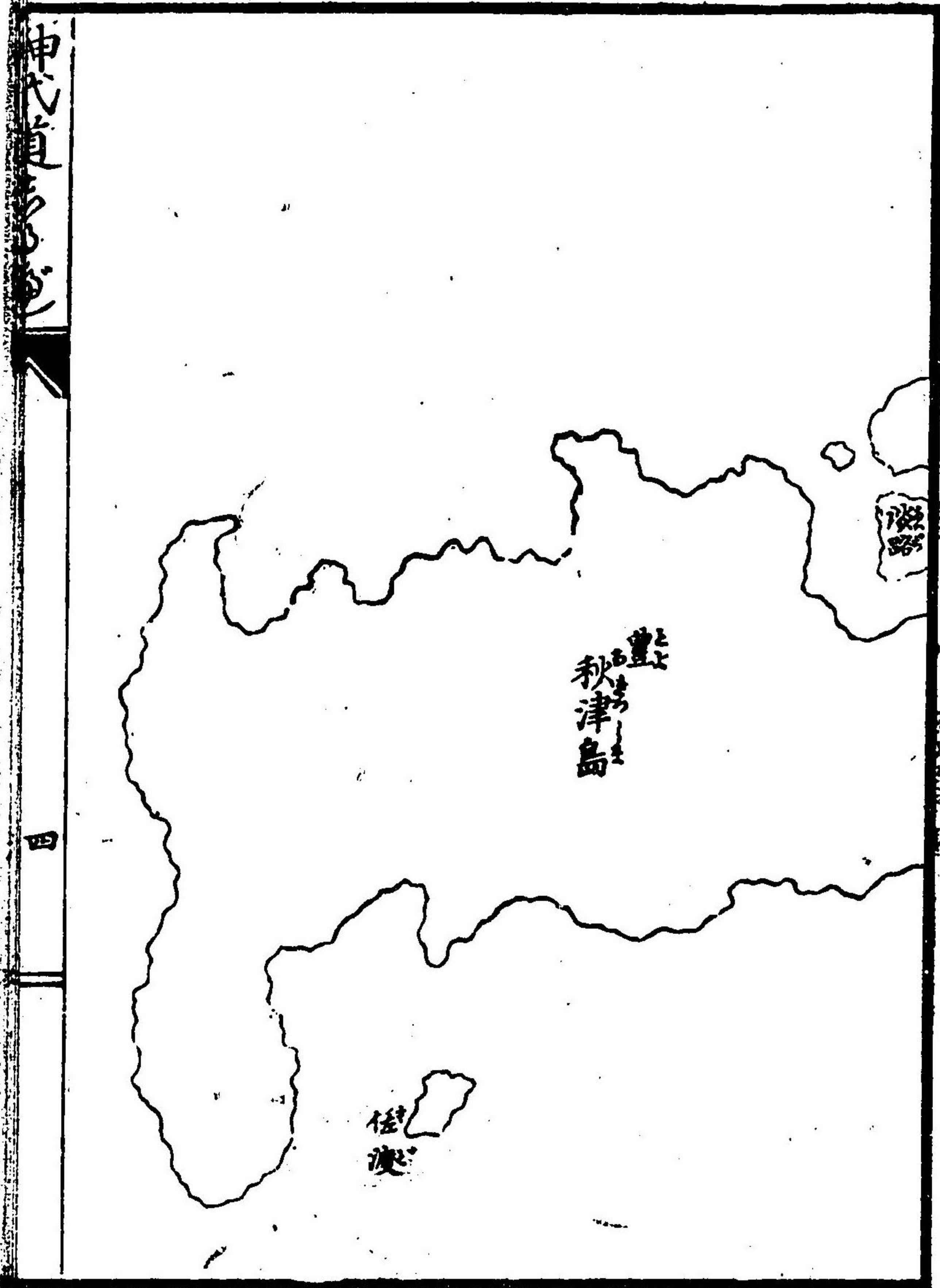


伊弉册の
二柱の神天の
浮橋より五の瓊牙を下りて漂つる國を
造り堅めたまふ大御、つらち



此間の細き所を
天の浮橋と言ふ

夜見の
園と云
是より



此名を天之御中と云ふ
神と云ふは天之御中と云ふ
日神神産灵日神之二
柱と云ふは天之御中と云ふ

と云ふは天之御中と云ふ
此の首をささぐりて天元
本は神と云ふは天之御中
神と云ふは天之御中と云ふ

神代卷 三
深き浮ぶ物の中より其
形第一牙のこもお膳ら物
よ因りて成産する神のた
る屋筆牙老男神と云ふ。

神代卷 三
次よ天之常了神以二神
生るは是迄の五粒をよ
左よ右神と別を神と
称する所を江の國之常了

三神次 由之 層層神あ

王然 柱ん 獨神次 序

比能 途 須比 智 迹 神 比 角 杖

活杖の神 倍 意 富 斗 能 地

女神

男神

神

女神

男神

男

大斗乃 辨江 遊母 陀流
何志 古泥の神 次 伊 契 媛
伊 特 母 乃 神 后 尊 神 世
七代 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

女神

神

男神

神

女神

男神

女神

神

神代道

四

下^{かろ}の浮橋^{うきはし}より多^ちかりひ^ひ瘰癧^{れび}身を
下^{かろ}しと海^{うみ}茂^さ採^たまきと潮^{しほ}流^り
海^{うみ}と雲^{くも}と^とま^まる^る是^{こゝ}を^を遊^{あそ}戯^び
其^{こゝ}る^る家^かと^とる^る所^{ところ}故^{ゆゑ}に^に身^みを^を

下^{かろ}降^{くだ}りて夫婦^{ふうふ}の根^ね茂^さ物^{もの}め
な^なま^まひ^ひと^とり^り子^こ鯉^い子^こを^を生^なま^ます
と^とま^まり^り水^{みづ}を^をん^んは^はり^り子^こ不^ふ具^ぐ
有^あり^りて^て第^{だい}に^に如^{ごと}く^く入^いり^りて^て流^{なが}る

一 桑^サに^ニ形^カを^シて^テ大^オ島^{シマ}の^ノ
 國^{クニ}を^シ生^ウむ^ル大^オ島^{シマ}と^ハ淡^{タン}路^ロ
 島^{シマ}債^ツ以^テ津^ツ路^ロ乃^ハ二^ニ島^{シマ}
 佐^サ岐^キの^ノ山^{ヤマ}島^{シマ}也^{ナリ}筑^{ツク}磯^{イソ}島^{シマ}

伊^イ岐^キ島^{シマ}津^ツ島^{シマ}佐^サ岐^キの^ノ島^{シマ}
 豊^{トヨ}之^ノ津^ツ島^{シマ}乃^ハ八^ヤ岐^キ島^{シマ}也^{ナリ}
 后^コを^シて^テ大^オ島^{シマ}の^ノ國^{クニ}と^シて^テ
 其^{ソノ}所^{トコロ}山^{ヤマ}島^{シマ}を^シ生^ウむ^ル也^{ナリ}

神代道徳

六

山川草木を生之後より白

之神哉生る是を天照

大神神人又大白女神皇

人言此神光兼照彩

し皇天地を照るは

高天原を治るは太陽

界を治るは次子月之

神を生るは是故月夜

見姑命とんく素戔鳴命
ともそふ其先般日よ一登と
た初見の國を同らしめ
潮乃二首重茂沼めしむ。

是を太陰界を以て始めふ
安んずるをく念ふを
治め志むるを願ふを
山すらむ初夜國

適人と清の伊弉諾乃
神河怒りまきて懸る
國を逐ひたり素神忽地天
交りて暴の態をさぐる

仍と天照大神天の名
屋戸は隠るまゝに地既
よ常闇となれ友よまて
八百あるの神なる屋戸

のあま集ひ天の宇を奉る
 哉しき神懸るまひ
 かきせ萬の神威お笑ふ
 天照大沙神并哉怪しむ

石戸を細目よ母らさぬ
 少とま天のま方男とそと
 る神る戸よまを掛け
 お一開けいそとる人第

神代卷
原の中國の照うめりま
れを萬の神達の素戔
鳴命の千位眞戸を負
せつ。神逐ひて産らむ

神代卷
りひしむ。斯と素神を
天を逐ひて國を傳り
す。時を厚なる際をひ
ぎ。故まらふ子をもて養ひ

と。神産の言をきひ
ゆへに。躬行悪を逐は
し。神を。言借する。神も
有。甚。雨降。風。吹。げ。ど。

更。み。体。と。ん。あ。ら。ま。り。し。が。
よ。り。と。出。産。の。國。記。の。川。と
よ。り。あ。ら。ま。り。ま。す。の
老。妻。婦。童。女。紙。中。小

もはほほなり。命ありと
仔細をいひ。又と美の
名。豆り名。権。安が名。ま。程。
ひ。ま。め。り。名。格。名。田。比。

賣。吸。う。ぐ。候。の。大。船。小
喫。ら。る。友。ら。も。ほ。ほ。を
し。ち。り。卷。く。し。ら。を。素。神
く。白。の。酒。を。磯。を。遠。

る智を海を斬る。其尾の中は劍あり。星を天照大神の秋と。草薙の太刀

とよ。徳を命を出。言造り。橘名。比賣を納れ。所歌代。佐々

乃言々々々後根の國よ
 退りて其徳は命の法
 孫の神を大に貴命とす
 大國の神とんといと殊

勝本とて神とよ。又神産
 雷神の御子と云々名神
 其徳は命の法
 所父神の御子の候

源り多し程の伸る能く。

功の効きしき。あまら。

大に安んじ程の神薬。

立之國土を作り隆む。

青人草のふみよして酒を
療む。才を治め。又為
獣昆虫治め。又紙擧む
あまら。神薬。法紙。

宮にありては人の世
 まもるに神乃國を教
 蒙る人の多しを
 大神神子乃種を
 大

中興原中國の
 先と倣ふに國を
 彩鬼多人武魂
 降し是を降す

し。ま。ま。よ。可。き。と。大。之。靈。神。
中。國。を。主。に。お。持。び。自。
ら。に。十。傳。よ。か。ら。ま。し。や。
そ。の。由。來。の。事。に。致。治。め。

か。ま。今。出。世。の。國。大。社。
鎮。ま。た。ま。あ。ま。の。神。
ま。ま。天。照。大。御。神。の。子。
天。之。忍。穂。耳。尊。を。國。に。

降^{くだ}る^る 燈^{あかり}と 清^{きよ}き^き 養^{やし}養^{やし}を
 有^ある^る 子^こを^を 同^{どう}じ^じ 子^こを^を
 可^かし^し 清^{きよ}き^き 名^なを^を 清^{きよ}き^き 養^{やし}養^{やし}を
 尊^{そん}ん^ん 仍^いん^ん 清^{きよ}き^き 子^こを^を 紙^し

五^ごの^の 儀^ぎ 一^{いつ}の^の 儀^ぎ あり^{あり} 多^たし
 三^{さん}種^{しゆ}の^の 神^{しん}器^き 紙^し 授^{じゆ}け^け ます
 侍^{ざい} 神^{しん} 器^き 紙^し 授^{じゆ}け^け ます
 中^{ちゆう}の^の 五^ごの^の 儀^ぎ 一^{いつ}の^の 儀^ぎ あり^{あり} 多^たし
 中^{ちゆう}の^の 五^ごの^の 儀^ぎ 一^{いつ}の^の 儀^ぎ あり^{あり} 多^たし

神代卷

五命を輔弼の神とし
 是君臣の初めなり
 朝政の機を察し
 遂に遂に命を授け

右位を離れ
 天を告げ
 國を傳へ
 都を治め

をとめ
娘女行名を本家の母

耶姫命是を娶

言山造理命を生

言又穗命を

欠

MISSING

峯 劔を破る事五百
針 能く千針地を渡
せと為すまゝ兄の神
受けし事存の針

申す事

責^{せめ}但^だら^らん^ん女^にの^の名^なを^をて
第^{いち}の^の命^{いのち}海^{うみ}心^{こころ}は^は出^いて^て海^{うみ}を^を
時^{とき}に^に鹽^{しほ}稚^{わか}の^の神^{かみ}は^はつと^と世^よ間^ま
孫^{まご}向^{むか}乃^なは^は松^{まつ}の^の年^{とし}も^も世^よ海^{うみ}

宮^{みや}の^のうら^{うら}うら^{うら}送^{おく}る^る女^にの^の名^なを^をて^て海^{うみ}神^{かみ}
の^の女^にの^の名^なを^をて^て海^{うみ}神^{かみ}は^はつと^と世^よ間^ま
あ^あら^らは^はは^は名^なを^をて^て理^り命^{いのち}を^をて^て神^{かみ}の^の
名^なを^をて^て海^{うみ}神^{かみ}は^はつと^と世^よ間^ま

言よちまを事大概之と也
 の方よこへつ失之考ら針
 低得まひつ兄の神
 らまれ史照神
 神

悔を悔が臣こらん
 まを此新乃ん豊玉姫を
 娘よせのむつちふ産
 むん時臨波姫よ

産後と造らんと鶏の
羽をもとて茸草と名を
いせ茸と名をいせと名を
生きたまを家神と名を
春村

鶏茸と名をいせと名を
今人申さるる始也乃
神此多と名をいせと名を
経年手ぬ方歳是也

即^{ツキ}あり此^{これ}を人^{ひと}皇^みの初^{はつ}め
 神^{かん}武^ぶ天^{てん}皇^みと名^な稱^{せう}す
 是^{これ}より百^{ひゃく}廿^{じふ}三^{さん}代^{だい}を經^へる
 今^{いま}之^{この}皇^み帝^{てい}より皇^みの道^{みち}

皇^み統^{とう}一^{いつ}姓^{せい}ありて
 萬^ま古^この天^{てん}皇^みの如^{ごと}く
 皇^みの御^み子^こありて
 皇^みの御^み孫^{そん}ありて
 皇^みの御^み孫^{そん}ありて
 皇^みの御^み孫^{そん}ありて

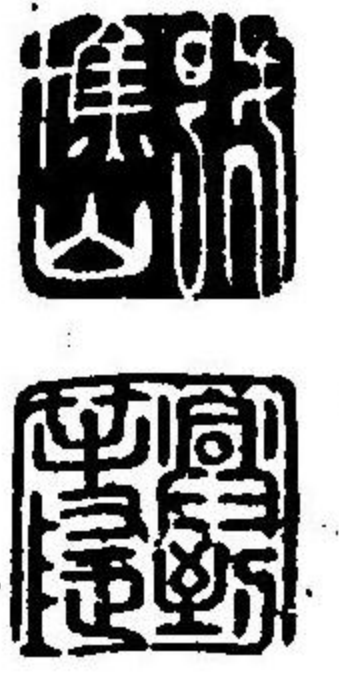
為^{しふと}の^か大^い河^{くわ}國^{こく}よ^うし^ま年^{ねん}序^{しゆ}の^え序^{しゆ}
 者^{ちを}人^{ひと}そ^んの^ちい^れる^に河^い代^{だい}の^に河^い
 取^{ちり}伏^{ふし}を^を何^{なん}ひ^ひも^もし^しき^き筆^{ひつ}
 を^を面^{めん}牆^{くわ}し^しの^の子^こに^にさ^さが^が如^{ごと}し^し

然^{しか}生^{せい}を^を入^い海^{かい}字^じの^の始^しめ^める^るを^を
 先^ま皇^{こう}國^{こく}の^の方^{かた}に^に海^{かい}字^じを^を始^しめ^める^るを^を
 入^い漢^{かん}字^じの^の書^{しよ}に^に渡^{わた}る^るを^を
 國^{こく}の^の字^じを^を入^い海^{かい}字^じに^に始^しめ^める^るを^を

有然の賀紙了らむ道
実主目の怠慢千年の
悔なき紙得たるは
吾國重んず家の禁手今は可

を二安失きを。勉めを
を道 一 道

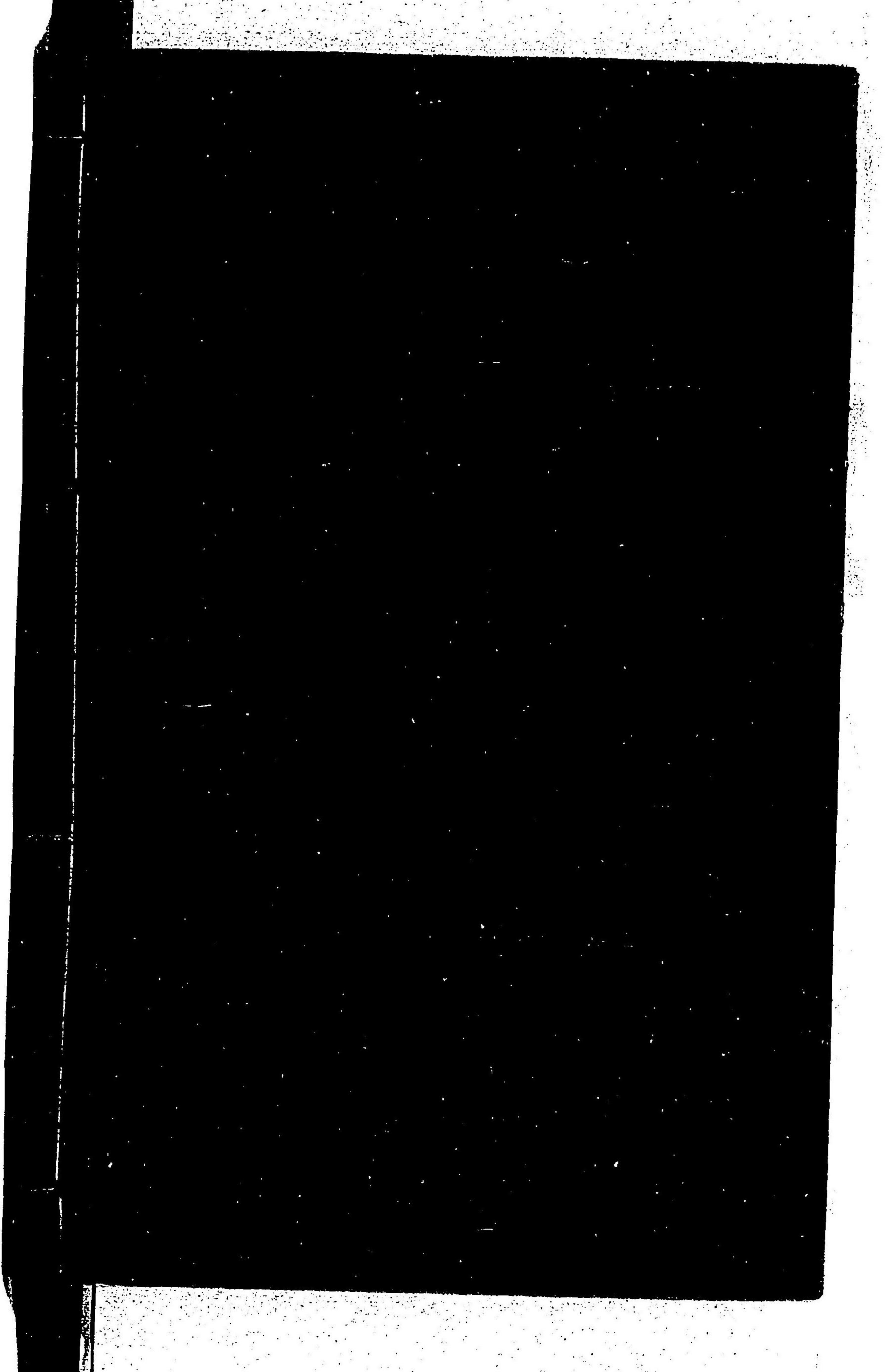
東京 樵山少家書



神代若生道

東京書林

相模屋七兵衛



特35

753

一本

014219-000-8

特35-753

神代道しるべ

染崎 延房/著

不明

ABB-0545

